

猛暑の中、泥かき作業に汗

桐生災害支援ボランティアセンター

桐生災害支援ボランティアセンター(宮地由高センター)長は15、16の両日、岐阜県関市の水害被災地で泥かきボランティアを実施した。訪れた8人は「平成30年7月豪雨」による河川氾濫で、集落の住宅が床上浸水した同市上之保地区に向かい、住民の指示を受け、廃材の分別作業や泥かき作業に汗を流した。同センターでは21、22日と28、29日にも現地へ赴き、支援を続ける予定で、参加できるボランティアを募集している。

岐阜・関市で支援活動

21、22日と28、29日にも再度



猛暑の中、泥かきの作業をするボランティアのメンバー(岐阜県関市で)

被災した住民を支援しようと、同センターでは岐阜県関市の支援を決定。桐生市ボランティア協議会、災害ボランティアネットワークの計8人が15日朝、マ

ク桐生、桐生災害支援イクロバスで現地に向き、同センターチームK-oneな。関市のボランティア各団体のメンバー4人を経由し、上之保地区の倉庫や道路沿いの土砂を取り除いた。

メンバーの多くは東日本大震災の被災地でもボランティア経験があり、知識も豊富。ただ、気温38度の中で作業は初めてで、タイムキーパーを置いて20分作業したら10分休憩を徹底。あめなどで塩分を取りながら、身の安全を確認しつつ慎重に作業を進めた。

コースに応じて「

桐生災害支援ボランティアセンターの主要構成団体である桐生市ボランティア協議会では17日の定例会で、宮地さんや青木講一さん、田村勇介さん、田面

みよまさんが現地の様子

子を報告。

災害ボランティアネ

ットワーク桐生の青木

代表は「ボランティアでは

熱中症対策に力を入

れ、水分や塩分、水タ

オルなどを配布していた。氾濫した河川は桐生川より少し規模が大き、橋に流木などがひっかかり、越水につながったようだ」と報告。

関市では連休中多くのボランティアが入り、片付け作業が進行。当初3カ所あったボラ

セムも上之保1カ所となり、避難所も閉鎖された。ただ、支援コースがなくなくなったわけではない。宮地さんはボランティアがある限り、現地のニーズに応じて支援を続けたいと話す。

21、22日と28、29日も10人程度でボランティアに赴く予定。いずれも正午に出発し、泊し、翌日作業をして桐生に戻る行程。参加費3000円(学生2000円)など、高校生は保護者の同意書が必要。申し込めは桐生市社会福祉協議会(電話46・4165)まで。